



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年1月27日

上場会社名 株式会社三越伊勢丹ホールディングス 上場取引所 東・福  
 コード番号 3099 URL <http://www.imhds.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 大西 洋  
 問合せ先責任者 (役職名) 業務本部総務部コーポレートコミュニケーション担当長 (氏名) 滝口 一雄 (TEL) 03-6205-6003  
 四半期報告書提出予定日 平成29年1月30日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	930,604	△3.9	19,637	△36.2	21,588	△35.7	19,577	△18.7
28年3月期第3四半期	968,632	2.9	30,760	16.5	33,559	19.3	24,078	33.1

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 7,873百万円(△52.1%) 28年3月期第3四半期 16,430百万円(△28.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	49.98	49.79
28年3月期第3四半期	61.17	60.93

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	1,308,843	576,636	43.3
28年3月期	1,293,043	574,316	43.6

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 567,159百万円 28年3月期 563,264百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	6.00	—	6.00	12.00
29年3月期	—	6.00	—		
29年3月期(予想)				6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	1,250,000	△2.9	24,000	△27.5	25,000	△31.9	13,000	△51.0
								33.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P5「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

29年3月期3Q	395,193,754株	28年3月期	395,118,414株
29年3月期3Q	3,468,379株	28年3月期	3,464,401株
29年3月期3Q	391,687,550株	28年3月期3Q	393,647,134株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	12
4. 補足情報	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日～平成28年12月31日)における我が国経済は、政府による政策等の効果もあり雇用・所得環境が改善し緩やかな回復基調が続いているものの、世界経済の不透明感が払拭されないことなどから個人消費は、所得、収益の伸びと比べ力強さを欠いています。

このような環境の下、当社グループは長年培ってきたノウハウ・リソースを結集することで「常に上質であたらしいライフスタイルを創造し、お客さまの生活の中のさまざまなシーンでお役に立つことを通じて、お客さま一人ひとりにとっての生涯にわたるマイデパートメントストアとなり、高収益で成長し続ける世界随一の小売サービス業グループ」となることをめざし、新しい価値の創出に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は930,604百万円(前年同四半期比3.9%減)、営業利益は19,637百万円(前年同四半期比36.2%減)、経常利益は21,588百万円(前年同四半期比35.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は19,577百万円(前年同四半期比18.7%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ①百貨店業

百貨店業におきましては、当社グループが本業を通じた活動として「JAPAN SENSES(ジャパンセンスイズ)」に取り組みグループを上げて日本の良さを提案しております。2016年からはキャンペーンを年2回から4回に拡大。今秋のテーマは「うみの美」を掲げ「北九州」「瀬戸内」にフォーカスし、受け継がれた伝統、優れたものづくりをご紹介いたしました。また、日本の良さを紹介するプロジェクトとして「STAND FORTY SEVEN(スタンドフォーティセブン)」を株式会社ビームスと立ち上げ、日本47都道府県の知られていないプロダクト、伝わる技術に新しい価値を創出、提案してまいります。年末年始には『大縁起物市』にて他には無い縁起物を「伊勢丹新宿本店」「三越日本橋本店」「三越銀座店」「ビームスジャパン」の4店舗で開催。両社のユニークな発想を起点に、日本をもっと楽しくするプロジェクトを目指します。

伊勢丹新宿本店では、未来の百貨店を創造する取り組みとして、ICTを使った営業時間や店頭提案の枠を超えたお客さまとのコミュニケーション機会の創出、新しい購買体験の提供に取り組んでおります。その一環としてショーウィンドウにて、パナソニック株式会社の「LinkRay(=光ID)」を使った「イセタン ナイトウィンドウ ショッピング」を行いました。当社グループで展開したクリスマスキャンペーン「ここに太陽を呼ぶ、祝祭。」と連動させ、クリスマスの特別なストーリーと共にオンラインショッピングをお楽しみいただきました。

三越日本橋本店では、カルチャーリゾート百貨店のコンセプトに則り、テクノロジーの新たな芸術表現として12月にプロジェクトマッピングを中央ホールにて実施、1960年に建立された天女像をさまざまな色で演出いたしました。最終日には恒例となった「三越の第九」演奏前に投影され、お買物の合間の特別なひと時をお過ごしいただきました。

三越銀座店では、銀座の街をステージに11回目を迎えたGINZA FASHION WEEKにて「JAPAN SENSES～うみの美」をテーマに豊かな海と共生する日本の地域をクローズアップして、海から得た知恵と工夫、生活の楽しみ方をご紹介いたしました。

首都圏以外の国内グループ百貨店では、株式会社名古屋三越において栄店と隣接する専門館ラシックを順次改装し、2館で一体の商業施設「SAKAEファッションモール」として、親子3世代が楽しめる名古屋随一の高感度ファッションモールを構築してまいります。その第1弾として栄店6階ウオッチ&ジュエリーを中部地区最大級のスケールで10月にリフレッシュオープンいたしました。

中小型店舗につきましては10月に「イセタン セントレア ストア」が中部国際空港内にオープンいたしました。

海外の百貨店業では10月にマレーシアのクアラルンプールにオープンした「ISETAN The Japan Store」にて、“tokyo exclusive”をテーマに東京ブランドを発信する“&TOKYO”プロモーションキャンペーンを開催いたしました。また、フランスのパリにオープンした「The Japan Store ISETAN MITSUKOSHI Paris」でも「東京」をテーマにしたキャンペーンを予定しております。伝統と最先端が共存する「東京」の特別な姿を世界へ発信してまいります。

EC事業におきましては、当社グループがWEBとリアル店舗での品揃えやサービスを融合し、新たな価値・顧客・事業の創造を推進しています。11月にはアリババグループが展開するECモール「天猫国際」に三越伊勢丹WEBサイトを新たに立ち上げました。すぐれた日本製品を中国のお客さまに直接お届け出来る環境を整え、アリババグループと戦略的パートナーとして協力し、中国のお客さまにお役に立てるよう取り組んでまいります。

なお、このセグメントにおける売上高は854,110百万円(前年同四半期比4.4%減)、営業利益は8,844百万円(前年同

四半期比56.7%減)となりました。

#### ②クレジット・金融・友の会業

クレジット・金融・友の会業におきましては、新たな外部取扱高の拡大に向けグループ外企業と提携し、会員規模拡大を進めております。株式会社エムアイカードでは、新たに鹿島神宮と提携カード発行をスタートいたしました。この提携カードは鹿島神宮へ寄付が出来る全く新しいスタイルのクレジットカードです。これからも他社との取組みを拡大し、グループ外企業との提携を強化してまいります。

なお、このセグメントにおける売上高は28,628百万円(前年同四半期比3.8%増)、営業利益は4,747百万円(前年同四半期比8.5%減)となりました。

#### ③小売・専門店業

小売・専門店業におきましては、株式会社三越伊勢丹フードサービスが11月に発信型ライフスタイルストア「FOOD&TIME ISETAN」をアトレ品川にオープンいたしました。「嗜む」「作る」「食べる」「過ごす」の4つのエリアで構成し、時間帯に応じて、異なるMD、サービスを提供。高感度なお客さまに食に関する専門性と食から広がるライフスタイルを提案してまいります。

なお、このセグメントにおける売上高は42,631百万円(前年同四半期比1.3%減)、営業損失は713百万円(前年同四半期は営業損失447百万円)となりました。

#### ④不動産業

不動産業におきましては、株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザインが新宿のスタジオアルタ跡地を活用し、新たに「ALTA THEATER(アルタシアター)」を11月にオープンいたしました。幅広い世代の男女を対象に、ライフスタイルに欠かせない「音楽」「映像」「サブカルチャー」をテーマに旬なコンテンツを発信してまいります。

なお、このセグメントにおける売上高は30,692百万円(前年同四半期比9.5%減)、営業利益は4,715百万円(前年同四半期比0.8%減)となりました。

#### ⑤その他

その他事業におきましては、株式会社三越伊勢丹旅行が10月よりインバウンド向け旅行サイト「VOYAGIN」にプレミアムクルーザーで行く富士山と箱根の日帰り旅行のご紹介をスタートいたしました。インバウンドのお客さまに向けて顧客接点を拡充してまいります。

当社グループは、新たな消費ニーズに対応するために積極的に事業の拡大・創出を図っております。コトサービスの強化として、トータル・ビューティー事業を掲げている株式会社ソシエ・ワールドを2017年1月に子会社化いたしました。当社グループの資源を最大限共有・活用する事で事業拡大を図っていくと共に、新たな業態開発も含めて、顧客接点の拡充と新たな創出価値を通じ企業価値の向上をより一層目指してまいります。

また、飲食・ブライダル事業におきまして、株式会社三越伊勢丹トランジットが8月に設立した株式会社フラテリパラディソジャパンがオーストラリア発のイタリアンレストラン「Fratelli Paradiso(フラテリ パラディソ)」を2017年4月に表参道ヒルズへ出店する事が決定いたしました。

なお、このセグメントにおける売上高は58,843百万円(前年同四半期比3.5%増)、営業利益は1,868百万円(前年同四半期比190.9%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は1,308,843百万円となり、前連結会計年度末に比べ15,800百万円増加しました。これは主に、季節要因により、受取手形及び売掛金が増加したことなどによるものです。

負債合計では732,207百万円となり、前連結会計年度末から13,479百万円増加しました。これは主に、季節要因により、支払手形及び買掛金が増加したことなどによるものです。

また、純資産は576,636百万円となり、前連結会計年度末から2,320百万円増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加した一方で、為替換算調整勘定が減少したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の連結業績予想につきましては、平成28年10月28日公表の連結業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	67,971	63,777
受取手形及び売掛金	128,756	144,521
有価証券	5	860
商品及び製品	60,475	64,848
仕掛品	119	143
原材料及び貯蔵品	771	815
その他	51,535	63,187
貸倒引当金	△3,303	△3,388
流動資産合計	306,331	334,765
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	175,559	171,589
土地	532,074	529,685
その他(純額)	23,667	24,685
有形固定資産合計	731,302	725,961
無形固定資産		
ソフトウェア	21,958	24,406
その他	36,625	36,421
無形固定資産合計	58,583	60,828
投資その他の資産		
投資有価証券	114,569	106,935
その他	82,466	80,611
貸倒引当金	△280	△316
投資その他の資産合計	196,755	187,230
固定資産合計	986,641	974,020
繰延資産		
社債発行費	70	58
繰延資産合計	70	58
資産合計	1,293,043	1,308,843



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	119,255	145,646
短期借入金	58,871	49,428
コマーシャル・ペーパー	23,000	50,000
未払法人税等	6,047	6,390
商品券回収損引当金	26,514	25,255
引当金	18,516	14,890
その他	167,961	170,470
流動負債合計	420,167	462,081
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	74,000	50,300
繰延税金負債	142,507	138,777
退職給付に係る負債	42,122	41,731
引当金	40	40
持分法適用に伴う負債	3,972	4,522
その他	15,917	14,753
固定負債合計	298,559	270,125
負債合計	718,727	732,207
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	50,276	50,311
資本剰余金	323,407	322,681
利益剰余金	184,908	199,785
自己株式	△6,280	△6,284
株主資本合計	552,312	566,494
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,830	5,172
繰延ヘッジ損益	△0	26
為替換算調整勘定	10,327	△2,502
退職給付に係る調整累計額	△2,206	△2,031
その他の包括利益累計額合計	10,951	664
新株予約権	1,681	1,612
非支配株主持分	9,371	7,865
純資産合計	574,316	576,636
負債純資産合計	1,293,043	1,308,843

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	968,632	930,604
売上原価	695,485	656,745
売上総利益	273,146	273,858
販売費及び一般管理費	242,386	254,220
営業利益	30,760	19,637
営業外収益		
受取利息	614	516
受取配当金	573	608
持分法による投資利益	3,570	2,658
固定資産受贈益	1,910	1,689
その他	630	923
営業外収益合計	7,300	6,394
営業外費用		
支払利息	831	752
固定資産除却損	962	1,055
その他	2,707	2,635
営業外費用合計	4,501	4,444
経常利益	33,559	21,588
特別利益		
固定資産売却益	—	1,156
投資有価証券売却益	1,232	—
関係会社株式売却益	—	71
特別利益合計	1,232	1,227
特別損失		
投資有価証券評価損	—	500
固定資産処分損	2,337	409
店舗閉鎖損失	—	886
事業構造改善費用	272	—
特別損失合計	2,609	1,796
税金等調整前四半期純利益	32,182	21,019
法人税等	8,712	1,754
四半期純利益	23,470	19,264
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△608	△312
親会社株主に帰属する四半期純利益	24,078	19,577

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	23,470	19,264
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	154	2,539
繰延ヘッジ損益	△2	28
為替換算調整勘定	△3,542	△4,979
退職給付に係る調整額	△18	175
持分法適用会社に対する持分相当額	△3,630	△9,155
その他の包括利益合計	△7,039	△11,391
四半期包括利益	16,430	7,873
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18,751	9,290
非支配株主に係る四半期包括利益	△2,321	△1,417

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	百貨店業	クレジット・金融・友の会業	小売・専門 店業	不動産業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	892,372	14,403	32,212	18,463	957,452	11,180	968,632	—	968,632
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,138	13,181	10,999	15,447	40,767	45,687	86,455	△86,455	—
計	893,510	27,585	43,212	33,911	998,220	56,868	1,055,088	△86,455	968,632
セグメント利益又は損失(△)	20,403	5,190	△447	4,754	29,900	642	30,543	217	30,760

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造・輸出入等・卸売業、物流業、人材サービス業、情報処理サービス業、旅行業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額217百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	百貨店業	クレジット・金融・友の会業	小売・専門 店業	不動産業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	853,213	15,708	31,977	18,654	919,554	11,049	930,604	—	930,604
セグメント間の内部売上高又は振替高	896	12,920	10,654	12,037	36,508	47,794	84,302	△84,302	—
計	854,110	28,628	42,631	30,692	956,063	58,843	1,014,906	△84,302	930,604
セグメント利益又は損失(△)	8,844	4,747	△713	4,715	17,593	1,868	19,461	175	19,637

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造・輸出入等・卸売業、物流業、人材サービス業、情報処理サービス業、旅行業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額175百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。なお、四半期連結損益計算書においては、特別損失の店舗閉鎖損失に含めて表示しております。

## (重要な後発事象)

## 取得による企業結合

当社は、平成28年11月29日開催の取締役会において、ポラリス・キャピタル・グループ株式会社が運営するファンドより、SWPホールディングス株式会社(株式会社ソシエ・ワールドの持株会社)の全株式を取得し、子会社化することについて決議しました。また、平成29年1月12日付で株式を取得したことにより子会社化しました。

## (1) 企業結合の概要

## ① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 SWPホールディングス株式会社(株式会社ソシエ・ワールドの持株会社)  
事業の内容 理容業、美容業、化粧品の輸入・製造・販売等を営む会社の株式の所有  
当該会社の事業活動の支配及び管理

## ② 企業結合を行った主な理由

当社グループは、「顧客価値の高いコンテンツの創出」「顧客接点の拡大と充実」「生産性向上の推進」「グループリソースを活用するための基盤強化」に取り組み中長期的なグループ価値向上を目指しております。その中、エステティックを始めとするトータル・ビューティの事業は、コトサービスの強化として、お客さまがより自分に合った価値観を追い求める上で、今後、当社グループに必要な事業であります。

当社グループの資源を最大限共有・活用することで、株式会社ソシエ・ワールドにおける出店機会の獲得やシステム・物流等のインフラ強化・効率化等を通じた事業拡大を図るとともに、新たな業態開発も含め、当社グループの既存・新規顧客に対して、顧客接点の拡充と新たな価値の提供を通じて、さらなる業績の拡大、及び企業価値の向上を目指してまいります。

## ③ 企業結合日

平成29年3月31日(みなし取得日)

## ④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

## ⑤ 結合後企業の名称

結合後の企業名称の変更はありません。

## ⑥ 取得した議決権比率

100%

## ⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価とした株式取得により、当社が同社の議決権の100%を取得したためであります。

## (2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	10,931百万円
取得原価		10,931百万円

## (3) 発生するのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

## (4) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

## 4. 補足情報

## (1) 連結業績の概要

(単位：百万円)

項目	当第3四半期累計期間 (平成28年4月～12月)	前第3四半期累計期間 (平成27年4月～12月)	前年差	前年比
連結売上高	930,604	968,632	△38,028	96.1%
連結売上総利益	273,858	273,146	711	100.3%
連結販売費及び一般管理費	254,220	242,386	11,834	104.9%
連結営業利益	19,637	30,760	△11,122	63.8%
連結経常利益	21,588	33,559	△11,971	64.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	19,577	24,078	△4,500	81.3%

## (2) 三越伊勢丹個別の業績の概要

## ①業績の概要

(単位：百万円)

項目	当第3四半期累計期間 (平成28年4月～12月)	前第3四半期累計期間 (平成27年4月～12月)	前年差	前年比
売上高	491,523	512,266	△20,742	96.0%
売上総利益	140,387	140,553	△165	99.9%
販売費及び一般管理費	138,018	127,915	10,102	107.9%
営業利益	12,225	21,683	△9,457	56.4%
経常利益	14,753	24,773	△10,020	59.6%
四半期純利益	10,209	17,876	△7,667	57.1%

## ②店別売上高

(単位：百万円)

店舗名	当第3四半期累計期間 (平成28年4月～12月)	前第3四半期累計期間 (平成27年4月～12月)	前年差	前年比
伊勢丹新宿本店	197,969	203,674	△5,705	97.2%
三越日本橋本店	126,165	128,966	△2,800	97.8%
三越銀座店	59,943	64,373	△4,430	93.1%
伊勢丹立川店	26,705	28,009	△1,303	95.3%
伊勢丹松戸店	13,725	14,543	△817	94.4%
伊勢丹浦和店	30,366	31,360	△994	96.8%
伊勢丹相模原店	15,529	17,377	△1,848	89.4%
伊勢丹府中店	11,905	14,289	△2,384	83.3%
三越千葉店	9,212	9,671	△458	95.3%
計	491,523	512,266	△20,742	96.0%

## (3) 国内グループ百貨店の売上高の状況

(単位：百万円)

会社名	当第3四半期累計期間 (平成28年4月～12月)	前第3四半期累計期間 (平成27年4月～12月)	前年差	前年比
札幌丸井三越	47,043	47,354	△311	99.3%
函館丸井今井	6,065	6,359	△294	95.4%
仙台三越	25,389	26,729	△1,339	95.0%
名古屋三越	50,239	53,301	△3,061	94.3%
静岡伊勢丹	14,479	14,735	△256	98.3%
新潟三越伊勢丹	34,323	34,516	△193	99.4%
広島三越	11,992	11,979	12	100.1%
高松三越	17,503	17,710	△206	98.8%
松山三越	10,880	11,304	△423	96.3%
岩田屋三越	86,705	88,686	△1,981	97.8%